

みゅーじあむ・船橋

令和3年9月

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site
Vol.17
船橋みゅーじあむ
Park Museum News



第17号

博物館ニュース	[2]
くらしの道具紹介 ちょっと昔の蠅対策	[3]
船橋の明治・大正・昭和 船橋の少年、夏休みを東京で過ごす。	[4-5]
船橋遺跡風景今昔 7 宮本台貝塚	[6-7]
インフォメーション	[8]

博物館ニュース

郷土資料館 よみがえった友情のオルガン

このオルガンは、太平洋戦争末期の昭和19年(1944)4月から昭和20年(1945)3月まで船橋市の通称花輪台(現東船橋6丁目)にありました「東京都花輪戦時疎開学園」で使われていたものです。令和2年度に、当館では再び美しい音色が響くように修復を行い、2階展示室にて展示しております。

この疎開学園では、東京都神田区(現千代田区北部)の26名の女子児童たちが親元を離れて疎開し、生活や勉強を共にしていました。

近くの宮本国民学校の青木悦子先生は、頼まれて1週間に1度、花輪学園でオルガンを使って音楽を指導することになりました。その縁から、宮本国民学校4年の女子児童が花輪学園を訪れることとなり、青木先生のオルガンの伴奏で一緒に歌を歌ったり、お手玉やおはじきをして遊んだりして、交流を深めていったそうです。徐々に花輪学園を訪れる児童の数も増え、先生たちの間にもあたたかな交流が生まれました。

昭和19年末ごろになると空襲が激しくなり、船橋も安全な場所ではなくなりました。昭和20年3月ごろ、花輪学園の児童たちは埼玉県柏崎村(現さいたま市)へ移ることになり、花輪戦時疎開学園は、幕を閉じることになりました。しかしその後、しばらくは先生、児童たちの交流は続いたそうです。

なお、このオルガンでの演奏は行っておりませんが、YouTube「ふなばし生涯学習チャンネル」内にて演奏動画を公開中です。よみがえったオルガンの音色を、どうぞお楽しみ下さい。



飛ノ台史跡公園博物館 企画展

第20回縄文コンテンポラリー展 in ふなばし「とびはくにもぐろう! ~縄文時代と対話する~」

当館では、毎年夏休みに合わせて、縄文コンテンポラリー展を開催してきました。昨年度はコロナ禍で中止となりましたが、今年度はその分じっくり熟成させた作品を展示することができ、7月18日(日)から8月29日(日)までの会期中に、1,754名の方にご覧いただきました。

今回は、14組のアーティストたちが、とびはくが所蔵する土器や土偶などの遺物を実際に手に取り、一対一で向き合いながら、そこから感じられる縄文の姿をアートという形で表現しました。陶芸・彫刻・絵画など様々な手法で作られた50点以上の作品が館内外を彩り、とびはくが美術館のような雰囲気になりました。

展示だけでなく、アーティストの方々を講師に迎え、5日間で9回のワークショップを実施しました。「樹脂粘土で遮光器土偶を作る」「レプリカ土器を復元する」といった普段できない縄文関連の体験をしたり、暑い夏にぴったりの水鉄砲や可愛い動きの人形を作ったりしました。コロナ禍ということで、定員を絞り、参加者間の距離をとって実施したので、参加できなかった人も多かったのではないかと思います。他にも、当館独自のワークショップを12回行い、こちらも参加者に楽しんでいただきました。また、この秋にも取掛西貝塚が国史跡となることもあり、今年の夏は自由研究のテーマを縄文に決め、とびはくに来る子も多かったです。オリンピックで熱戦が繰り広げられた今年の夏は、縄文もとても熱かったです!

夏が終わり、文化・芸術の秋がやってきました。コロナ禍で迎える2回目の秋ですが、感染の広がりが落ち着き、予定している講演会などができるよう、職員一同願っています。



やちぐちひろゆき 作
わたつみ
「海神のゆげ」

くらしの道具紹介

～ちょっと昔の蠅対策～

郷土資料館で開催した企画展「船橋のおうち」（会期：令和3年7月22日～8月29日）では、昭和20年代後半の船橋市の広報誌を手掛かりにして、伝染病予防のための家庭での蠅対策を紹介しました。

現代では、下水道や塵芥処理の整備により蠅の大量発生が無くなったことや、冷蔵庫や食品ラップ・殺虫剤などの普及・性能向上により、食べ物に蠅がたかるような状況は少なくなりました。

ここでは、それらが普及する前の昭和20年代に、実際に使われていた蠅対策の道具を紹介します。

◆ 蠅取りボン（はえとりりぼん）

蠅を捕獲、駆除する方法はガラス製の蠅取器や、ラッパ状の蠅取棒など、様々なものがあります。

下の写真中央に写っているのは、蠅取りボンです。

この道具は、どこにでも止まるという蠅の習性を利用し、粘着質のリボンを部屋の天井や長押しに吊るして、止まった蠅を絡め捕ります。

明治時代、「フライキャッチャー」の名で海外から輸入された当初は、紙に粘着物を塗っただけでしたが、昭和初期に日本の企業が粘着紙を小型のリボン状に改良したものを開発しました。

この蠅取りボンは殺虫成分を一切使っていないことから、安全に蠅を捕獲・駆除できるとして、現在でも国内外で販売・利用されています。

船橋市内の農家出身で、過去に蠅取りボンを使用して人に話を聞いたところ、台所で使っただけでなく、農作業小屋に天井から何本も吊り下がっていたこと、梅雨時期から夏にかけては蠅が大量にへばりついて

いたことを覚えているとのことでした。

なお、この蠅取りボンを郷土資料館事務室内で実際に使用してみたところ、埃などが入らない環境での粘着力は3か月を経過しても衰えず、また実用としても蠅を含む小型昆虫の捕獲に役立つことを確認しました。



◆ 蠅帳（はいちょう、はえちょう）



上の写真の蠅帳は、昭和10年代から20年代にかけて、船橋市内の一般家庭で実際に使用されていたものです。

蠅帳とは、主に梅雨時期から夏にかけて、風通しをよくして食物の腐敗を防ぎ、かつ蠅や塵を除ける道具です。また、食物だけでなく、食器の蠅除けにも使用されていました。

江戸時代から一般的に使用され始めたと言われており、写真のように四角い戸棚の扉や壁の代わりに紗や金網張りにしたものや、吊り下げる小型のものがありました。

この道具は、昭和30年代の高度経済成長期に、食事や食材をより衛生的に保存できる電気式冷蔵庫が普及したことで、徐々に家庭から姿を消しました。

また、蠅帳には下の写真のように覆い形のものもあります。これは食卓の上に一時的に被せておくもので、四角い枠にアーチ状に針金の骨組を取り付け、紗を張った形のものと、柄の無い傘状の折り畳み式の形のものがあります。

こちらは「食卓カバー」などの名称で、現在でも一般家庭だけでなく、アウトドア用品としても使用されています。（小澤 重和）



参考文献：工藤員功編・岩井宏實監修

『〔絵引〕民具の事典』（河出書房新社、2008年）

船橋の少年、夏休みを東京で過ごす。 — 明治38年(1905) 8月「暑中日記帳」—

右の写真は、令和3年(2021)3月に、郷土資料館の2階で撮影した写真です。丸で囲った資料は、表紙に「暑中日記帳」と書かれた、明治38年(1905)8月1日から31日までの日記です。筆者は、船橋高等小



学校第4学年(現在の中学2年生)の少年で、彼の実家は、船橋町横宿(現在の船橋市宮本)の酒問屋でした。

少年は、日記をまとめて書いた日があるようです。そして、たまに日付や漢字を間違えています。しかし、展示室から収蔵庫に戻す前に改めて日記を読んだところ、彼の日記が、明治38年の時代性を感じられる資料だということに気がきました。

8月4日、東京に行く。

展示では、冒頭の8月1日・2日の部分をお見せしていましたが、紙を1枚めくると、少年が、東京に行ったことがわかります。

八月四日金曜日
朝八時二起キマシテ、読本・理科ヲ三枚読ミマシテ、^{て ふうきん}手風琴ヲ二時ヤリナガラ軍歌ヲヤリテ、午後ノ三時二ナリタラ、シルネヲシテ、スグニ東京ヘ行キテ…(略)…両国ニツキタラ、蒸気ニノリ、永代マデノリマシテ、東京ノ日比谷町ト云ヒ所ニ^(ママ)シルイガアリマシテ、其内デ又^(方)手風琴ヲヤリテ、夜二ナリタラ銀座ノホーヘ遊ビニ行キテ…

乗り降りの場所は明記されていませんが、おそらく船橋駅から総武鉄道(現在のJR総武線)に乗って、



前年に開業したばかりの両国橋駅(現在の両国駅)で降り、墨田川を運行する乗合蒸汽(気)船に永代橋の橋詰まで乗り、徒歩で日比谷町の親類の家を訪ねたのでしょうか。下線を引いた「手風琴」とは、アコーディオンのことです。「手風琴」は、しばしば日記に登場します。少年は、きっと「手風琴」に夢中だったのでしょうか。

東京での過ごし方

少年は、8月20日に船橋から迎えに来た父と、同日午後6時の汽車で帰るまで、東京に滞在しています。宿泊地は、毎日の行動から、日比谷町の親類の家と考えて良さそうです。

東京での起床時間は午前4時30分から8時、就寝時間は午後8時20分から12時で、体調不良(頭痛など)の日を除いた船橋での生活と、ほとんど同じです。家で勉強したり(読本・地理・修身・手習・書方)、遊んだり(手風琴・すごろく・唱歌)、歩いて川や海に行ったりする日があることも、あまり変わりません。ただし、船橋に居る時のように、雑巾がけや庭掃き、家業の手伝い(得意先の空き樽を集める「タルトリ」「タルシロイ」)はしていません。

また、東京では、電車や船を使って遠出をしています。6日と9日に乗っている「市街電車」は、明治36年から37年にかけて開通したばかりの路面電車で、日比谷公園の停留所から大手町方面や築地方面に行けました。7日に月島・佃島方面から築地まで乗った「東京市の渡船」は、明治35年に市営化された渡し船のことです。

活動写真・見世物・パノラマ

少年の日記からは、明治38年8月頃に東京で人気があった娯楽を読み取れます。

行き先	主 な 行 動
銀座	『日露戦争事(実カ)記』を買う(4日) 日露戦争のパノラマを見る(13日) ※10,12日にも訪問
両国	花火を見に行く(5日夜) 両国橋に遊びに行く(12日夜)
築地	本願寺で休息し、出征軍人幼児保育所を見る(7日) ※20日にも訪問
新富町	氷汁粉を食す(7日)
浅草	氷を飲む(8日)、見世物を見る(10日)
上野	パノラマを見る(9日)

※他に、新橋・月島・佃島・永代橋・日比谷公園を訪問。

例えば、15日の夜に、おそらく日比谷の近くで「活動写真」を見えています。「活動写真」は、当時の映画の呼称です。また、10日には、浅草で、「見世物」を見えています。当時の浅草には、曲芸などを見ることが出来る見世物小屋が多くありました。そして、9日に上野、13日に銀座で、「パノラマ」を見えています。

円環状の壁面に描かれた精巧な風景画などを見るパノラマ館は、日本では、明治23年(1890)に上野公園と浅草公園に設立されました。少年が、銀座で「日露戦争ノパノラマ」を見ていることは、日清戦争や日露戦争を題材としたパノラマが人気を集めたという当時の状況と合致します。日記が始まる明治38年8月1日は、日露戦争で、樺太のロシア軍が降伏した翌日で、8月10日からは、アメリカのポーツマス近郊で講和会議が開かれました。少年は、そのような時期に、東京で夏休みを過ごしていたのです。

両国の川開き花火

東京に居る時の少年は、船橋に居る時と違い、ときどき夜に遠出をしています。ここでは、両国に行った日の記述を紹介します。

八月五日土曜日雪雨
…夜ルニナリタラ、両国ノハナビニミニ行キテ、
(だいふ)(賑やか) タイフニニヤカデ…

明治38年8月5日は、墨田川の川開きの花火が予定されていた日です。すみだ郷土文化資料館の学芸員の研究によると、①当時の両国川開き花火は「鍵屋」による仕掛け花火が人気で、新聞でも紹介されていたこと、②千葉方面からの総武鉄道、埼玉方面からの東武鉄道、東京府民が使う路面電車など鉄道網の充実が、川開き花火に新しい観客をもたらしたことが明らかになっています。

鉄橋になった両国橋

少年は、12日にも、明治37年11月に洋式木橋から鉄橋になったばかりの両国橋に、「遊び」のために行っています。

八月十二日土曜日雪
(星夜) …シルネヲシテ、手風琴ヲナラシテ、夜八両国橋へ
遊ビニ行キテ、夜八十二時ニネタリ、一日ノ事終リ

明治38年から5年後の資料になりますが、「東京名所」の一つとして夕方の両国橋の風景を取り上げたものもあります。



東京名所 両国橋之夕色 明治43年(1910)
すみだ郷土文化資料館所蔵

総武鉄道開通後の明治30年代、現在の船橋市域では、中山・船橋・津田沼の各駅が開業していました。少年のような夏休みを、誰もが過ごした訳ではないでしょう。ただし、船橋の人たちと東京との距離感が縮まっていたのは、間違いのないと思います。

※本稿作成にあたり、すみだ郷土文化資料館の石橋星志氏と福澤徹三氏からご教示を受けました。心より御礼申し上げます。
(小田 真裕)

船橋遺跡風景今昔 7

みやもとだいかいづか 宮本台貝塚

宮本台貝塚とは

宮本台貝塚は、宮本台遺跡群の北東部にある縄文時代後期(約4,000年前)の遺跡です。この地の小字名は「貝殻堀込」で、古くから遺跡の存在が知られていました。

土地区画整理事業にともない昭和44年(1969)に発掘調査が行われました。竪穴住居跡をはじめとして多くの遺物が見つかりました。

なかでも多数の人骨がまとまっている土坑墓が発掘され、注目されました。この集落到住んだ人々が共通の祖先を祀り集落の団結を願ったものだったのかもしれませんが。発掘地点の西側の宮本台北公園の下には遺跡が保存されています。



宮本台遺跡群の範囲と宮本台貝塚(☆部分)

出典：船橋市教育委員会『ふなばしの遺跡』(2018)

※ 宮本台北公園に遺跡説明板が設置されています。

発掘状況

- 調査期間：昭和44年(1969) 7月21日～8月25日
- 調査面積：幅6m道路敷地部分の総面積4,270㎡



←発掘風景1

(遺跡北側から南側を眺める)

地表面に貝塚の貝殻が散らばっているため、白く見えます。小字名が「貝殻堀込」である理由がわかります。



発掘風景2→

(上写真の右隅櫓上から撮影)

中央部の土坑(発掘者3名が作業中)が多数の人骨が出土した土坑墓です。

その他、1,4,5号住居跡と多数の小竪穴状遺構が姿をあらわしています。

発掘された遺物



1号住居跡の床上出土のイノシシ頭骨と土器



ちゅうこう
注口土器

(飛ノ台史跡公園博物館所蔵)

飛ノ台史跡公園博物館で展示中の注ぎ口がついている土器です。時期や地域によって形態や装飾が変化してきました。

飛ノ台史跡公園博物館では、他にも宮本台貝塚の出土品を展示中です。

遺跡周辺の同位置の変貌



←遺跡中央部から東南側を望む

昭和44年(1969) 8月撮影

総武線を千葉行きの蒸気機関車(C57か)が走る。千葉県内でSL牽引旅客列車が走ったのは同年9月30日が最終です。貨物車は翌年3月24日が最後でした。



東にわずか離れた地点から撮影
令和3年(2021) 6月撮影

↓遺跡中央部から西側を望む 昭和44年3月



発掘地には一面に畑が広がっていました。遠方に行田にあった無線塔が写っています。



現在の宮本台北公園
鉄塔が同じ位置に建っています。
(山本 稔)

〈参考文献〉・船橋市教育委員会『宮本台Ⅰ、Ⅱ』(1974)
・白土貞夫『ちばの鉄道一世紀』 斎書房出版(1996)

・船橋市教育委員会『船橋市の遺跡』(1987)
・船橋市教育委員会『ふなばしの遺跡』(2018)

インフォメーション

※両館の行事の詳細は、毎月1号の『広報ふなばし』でお知らせします。

※日程・内容に変更が生じる場合がございます。最新の情報は、ホームページをご確認いただくか、直接両館にお問い合わせください。

郷土資料館

※薬円台公園内のSLの運転席を、毎週土曜日・日曜日・祝日（年末年始・雨天時を除く）の午前10時～午後4時に公開しています。

【令和4年3月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
11月21日(日)	文化講演会「船橋の海と漁業—木造和船の実測調査から—」	薬円台公民館（船橋市薬円台5-18-1） ※薬円台公民館と共催
1月15日(土)～	企画展「埋め立て前の船橋」（仮）	郷土資料館 3階第2展示室

飛ノ台史跡公園博物館

※飛ノ台史跡公園博物館では、毎週土曜日・日曜日・祝日の他、小・中学校の夏休み・冬休み・春休み期間中に、小学校4年生から大人向けのワークショップを実施しています。

【令和4年3月までの主な行事予定】

期 日	行 事 名	会 場
10月16日(土)～ 12月5日(日)	企画展「船橋のいちばん暑かった時—縄文時代前期の地球温暖化—」	飛ノ台史跡公園博物館 1階ギャラリー
10月23日(土)～ 11月23日(火・祝)	小企画展「最新科学が明らかにしたわたしたちのルーツ」	飛ノ台史跡公園博物館 3階展示室
10月27日(水)、 11月3日(水・祝)、 11月10日(水)	縄文大学	市民文化創造館（きららホール） （船橋市本町1-3-1フェイビル6階）
12月18日(土)～ 1月23日(日)	くらしの道具展 —道具が語るくらしの歴史—	飛ノ台史跡公園博物館 1階ギャラリー
1月15日(土)、 1月22日(土)、 1月29日(土)	考古学講座	海神公民館（船橋市海神6-3-36） ※海神公民館と共催
2月13日(日)～ 3月6日(日)	海神中学校・高根台中学校・ 飛ノ台史跡公園博物館合同展	飛ノ台史跡公園博物館 1階ギャラリー



協力：
船橋市華道連盟



「ふなばし生涯学習チャンネル」では、両館の職員手作りの学習動画を配信しています。➡

郷土資料館

開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
住 所 船橋市薬円台4-25-19
電 話 047-465-9680
F A X 047-467-1399
Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成線 習志野駅下車徒歩10分
JR 津田沼駅北口から
船橋新京成バス・ちばレインボーバスで
「郷土資料館」下車徒歩2分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
入 館 料 一般110円（団体20名以上70円）
児童生徒50円（団体20名以上30円）
市内在住中学生以下 無料
住 所 船橋市海神4-27-2
電 話 047-495-1325
F A X 047-435-7450
Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン
新船橋駅下車徒歩8分
京成本線 海神駅下車徒歩15分
東葉高速線 東海神駅下車徒歩12分
船橋新京成バス
JR 船橋駅北口から建鉄循環
「海神中学校前」下車徒歩1分



ご利用案内・交通案内

休館日カレンダー

10月	11月	12月	令和4年 1月	2月	3月
日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土	日 月 火 水 木 金 土
3 4 5 6 7 8 9	7 8 9 10 11 12 13	5 6 7 8 9 10 11	2 3 4 5 6 7 8	6 7 8 9 10 11 12	6 7 8 9 10 11 12
10 11 12 13 14 15 16	14 15 16 17 18 19 20	12 13 14 15 16 17 18	9 10 11 12 13 14 15	13 14 15 16 17 18 19	13 14 15 16 17 18 19
17 18 19 20 21 22 23	21 22 23 24 25 26 27	19 20 21 22 23 24 25	16 17 18 19 20 21 22	20 21 22 23 24 25 26	20 21 22 23 24 25 26
24 25 26 27 28 29 30	28 29 30	26 27 28 29 30 31	23 24 25 26 27 28 29	27 28	27 28 29 30 31
31			30 31		

□ は郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館休館日 ※都合により、休館日が変更になる場合があります。

発行：令和3年（2021）9月30日 船橋市郷土資料館・船橋市飛ノ台史跡公園博物館
表紙写真：郷土資料館企画展「船橋のおうち」四畳半展示 神保君雄氏撮影